

「！」 「！」 Kの自殺と黒い光

Kは私とお嬢さんとの婚約を知りその後自殺をする。Kが自殺することで私の未来は黒い光に照らされる。私にとって「大切なもの」を守ろうというエゴにより黒い光に照らされることになる。

K

私

① 154 上 13 「私はそのまま二、三日過ごしました。その二、三日の間Kに対する絶えざる不安が私の胸を重くしていたのは言うまでもありません。私はただでさえなんとかしなければ、彼にすまないと思ったのです。」 O「Kに対する絶えざる不安」とは何か？

② 154 下 5 「私はなんとかして、私とこの家族との間に成り立った新しい関係を、Kに知らせなければならぬ位置に立ちました。」 O「新しい関係」とは何か？

③ 154 下 7 「しかし倫理的に弱点を持つていると、自分で自分を認めている私には、それがまた至難のことのように感ぜられたのです。」 O「倫理的な弱点」とは何か？

④ 154 下 18 「まじめな私には、それが私の未練の信用に関するとしか思われなかつたのです。結婚する前から恋人の信用を失うのは、たとい一分一厘でも、私には堪えきれない不幸のように見えました。」 O「O「まじめ」はどういう意味で使つているのか？

⑤ 155 上 5 「要するに私は正直な道を歩くつもりで、つい足を滑らしたばか者でした。」 O「正直な道・「足を滑らした」とは何を指しているか？

⑥ 155 上 9 「私はあくまで滑つたことを隠したがりました。同時に、どうしても前へ出ずにはいたらがれなかつたのです。私はこの間に挟まつてまた立ちすくみました。」 O「前へ出る」とはどういうことか？

⑦ 155 下 12 「Kはこの最後の打撃を、最も落ち着いた驚きをもつて迎えたらしいのです。」 O「お嬢さんと私の婚約を知ったKの態度から想像できるKの内心は？」

⑧ 156 上 7 「奥さんの前に座つていた私は、その話を聞いて胸がふさがるような苦しさを覚えました。」 O「苦しさ」を説明しなさい。

⑨ 156 上 10 「勘定してみると奥さんがKに話しかけてからもう一日余りになります。その間Kは話を全くそれについて少しありません。で、私は全くそれに気がつかずにいたのです。」 O「Kの内心はどのようなものだったと考えられますか？」

K

⑩ 156 下 4 「私が進もうかよそかと考えて、誰もかくも明くる日まで待とうと決心したのは土曜の晩でした。」 ○私が「進む」とができないのはなぜか?

⑪ 156 上 16 「おれは策略で勝つても人間としては負けたのだ。」といふ感じが私の胸に渦巻いて起きました。」 ○私のどういう言動が私に「負けを感じさせたのか?具体的に挙げなさい。

⑫ 156 下 15 「ランプが暗くともつているのです。そこで床も敷いてあるのです。しかし掛け布団はそのまま返されたようにするそのほうに重なり合っていります。そうしてK自身は向こう向きに突つ伏しているのです。」

156 下 15 「ラ

それでも私はついに私(の)を忘れることができませんでした。)

・ ・ ・

「そのとき私の受けた第一の感じは、Kから突然恋の自白を聞かされたときのそれとほぼ同じでした。私の目は彼の部屋の中を一目見るやいなや、あたかもガラスで作った義眼のように、動く能力を失いました。私は棒立ちに立ちすくみました。「それが疾風のごとく私を通過したあとで、私はまたあしまつたと思いました。」

↓自白の場面を確認

157 上 12 「もう取り返しがつかないという

光が、私の未来を貫いて、一瞬間に私の前に横黒いたわる全生涯をものすごく照らしました。そうして私はがたがた震え出したのです。」 ○「取り返しがつかない」ものは何か?

157 下 1 「それでも私はついに私を忘れることがあります何か?別の表現で言い換えなさい。」

157 下 3 「それは予期どおり私の名前になりました。私は夢中で封を切りました。しかしながら中には私の予期したようなことはなんにも書いていませんでした。」 ○どうして私宛の手紙があると思ったのか?

157 下 9 「私はちょっと目を通してただけで、まづ助かってましたとしました。(もとより世間体の上だけで助かってたのですが、その世間体がーの場合、私はとつては非常な重大事件に見えたのです。)」 ○「世間体」とはーの場合具体的に何か?

○「世間体の上だけで助かってない他のことは何か?」

○「世間体の上だけで助かってない他のことは何か?」

158 下 6 「私は震える手で、手紙を巻き取めて、再び封の中へ入れました。私はわざとそれをみんなの目につくように、元のとおり机の上に置きました。」 ○どうしてわざとみんなの目につくように置いたのか?

○「襖」「血潮」がほどせじかじるところのは何を暗示しているか?

158 下 8 「そうして振り返つて、襖にほどばしつている血潮を初めて見たのです。」 ○「血潮」にそれまで気づかなかつたのはなぜか?